

漢文『完璧（帰趙）』 定期テスト対策問題 | 書き下し・現代語訳・句法の頻出設問と解答 解答・解説

問1

- (1) ここにおいて
- (2) 趙（の恵文王）

〔解説〕「是に於いて」は「そこで・こうして」と場面を転換する常套句。ここでの「王」は趙の恵文王。璧を持っている側、相如を呼び出す側である点から判断する。

問2

（訳例）秦が城を差し出して璧を求めているのに趙が承知しないとなれば、（道理に合わない）非は趙の側にある。

〔解説〕「曲」は「正しくないこと・落ち度・非」。「ずんば」は假定（～ないならば）。相如が、交渉に応じる正当性を理屈で整理して述べた場面。

問3

- (1) 城（じやう）入らずんば、臣請ふ、璧を完（まつた）うして趙に帰らん
- (2) ア
- (3) 藺相如（りんしょうじょ）

〔解説〕「臣請ふ～ん」は「(私に) どうか～させてください」という請願（願望）の句法。自分の動作についての願い出なのでア。イの「依頼」は相手の動作を求める用法で、ここでは不適。「臣」は王に対して自分をへりくだって言う一人称で、発言者である藺相如を指す。

問4

- (1) （例）璧を傷一つない完全な状態に保つこと。（14字）
- (2) イ

〔解説〕「完（まつた）うす」は「完全な状態に保つ・無傷で全うする」。本文の「完璧」は文字どおり「璧を完（まつた）うする」＝傷のない璧を無事にもとへ持ち帰る意味で、ここからイが正解。現在使われる「欠点がなく完全」（＝ア）は後世に広がった転義であり、本文での原義とは区別する。

問5

- (1) （例）璧に傷があると偽って、秦王の手から璧を取り戻すため。
- (2) か／（実際には）存在しなかった（うその傷）。

〔解説〕秦王に城を渡す気がないと見抜いた相如が、「傷をお見せします」と言って璧を返させ、取り返すための方便。傷は実在せず、相如の機転による嘘である。

問6

- (1) 使役（使役の句法）
- (2) ～させる（ある人に動作をさせる）
- (3) （訳例）（大王は）人に命じて手紙を出させ、（それを）趙王のもとへ届けさせた。

〔解説〕「使（し）ム」＋〔人〕＋〔動詞〕で「〔人〕に～させる」という代表的な使役構文。「発書」は手紙を出すこと。

問7

(1) 抑揚（よくよう）の句法

(2) (訳例) そもそも庶民どうしの交際でさえ、なお互いにだまし合わないものだ。まして大国（の君主）であればなおさら（だますはずがない）。

(3) 官位のない庶民。

〔解説〕「Aすら尚ほ～、況んやBをや」は、軽いAを引き合いに出して重いBを強調する**抑揚形**。「庶民でさえ約束を守る、まして大国はなおさらだ」と述べ、約束を守らない秦王を暗に責めている。「布衣（ふい）」は布の衣で、官職のない一般庶民を指す。

問8

(1) (例) 秦王が無理に璧を奪おうとすれば、自分の頭を璧もろとも柱に打ちつけて璧を砕いてしまう、という決死の覚悟を示した。

(2) イ

〔解説〕命を懸けてでも璧を守るという脅し（覚悟）の場面。「砕けん」の「ん（む）」は話し手自身の動作についての強い**意志**を表す。

問9

(1) 使役（使役の句法）

(2) (例) 粗末な身なり（庶民の服）をさせた、ということ。

(3) (例) 目立たない抜け道（わき道）を通過してこっそり逃げ帰らせたということ。

〔解説〕「従者をして～（せ）しむ」も使役。「褐（かつ）」は粗末な布の衣で、従者を庶民に変装させた。「徑道」はわき道・近道で、人目を避けて璧を趙へ持ち帰らせた。

問10

(例) 結局、秦は城を趙に渡さず、趙も璧を秦に渡さないまま終わった（取引は成立せず、璧は趙に守られた）という状況。

〔解説〕相如の機転により、趙は城を得られなかったものの、璧を秦に奪われずにすんだ。これが「完璧（帰趙）」＝璧を全うして趙に帰した、という結末である。

問11

(1) ささげて（ほうじて）

(2) (例) 両手でうやうやしく持つ・差し上げる（献上する）。

〔解説〕「奉」は「ささ（げる）／たてまつる」で、敬意をもって両手で持ち上げ差し出す動作。

問12

(例) ①璧を受け取ると側近や美人に次々と見せて喜ぶばかりで、城のことに触れなかった点。②相如を正式な場ではなく軽い場所（列観）で接見し、礼儀が傲慢であった点。

〔解説〕本文の「伝へて以て美人及び左右に示す」「臣を列観に見、礼節甚だ倨れり」から読み取る。

問13

〔説明例〕 激しい怒りのために髪の毛が逆立ち、かぶっている冠を突き上げるほどであった、という様子。／四字熟語＝怒髪衝天（どはつしょうてん）。

〔解説〕 怒りが頂点に達した形相を表す誇張表現。「怒髪、天を衝く」とも。

問14

〔例〕 秦王が力づくで璧を奪おうとすれば、本当に璧を柱に打ちつけて砕いてしまうという姿勢を見せ、秦王に手出しをさせないため。

〔解説〕 「睨柱（柱を睨む）」「欲以撃柱（柱に打ちつけようとする）」は、決死の覚悟を行動で示し、秦王をひるませる威嚇である。

問15

(1) かじん (2) どはつ (3) けいどう

〔解説〕 「寡人」は君主が自分をへりくだって言う一人称。「怒髪」は怒りで逆立つ髪。「径道」はわき道・近道。

問16

イ

〔解説〕 相如は、命の危険のある秦王の前でも、嘘の傷を口実に璧を取り返し、従者に変装させて璧を趙へ送り返すなど、機転（知略）と胆力で主君（趙）の利益を守った。よってイ。

問17

読み＝あた（ふ）／意味＝（璧を秦に）与える・引き渡す。

〔解説〕 「予（あた）ふ」は「与える」と同じ。「予ふべきや不（いな）や」で「与えるべきか、そうでないか」と趙王が思案する場面。

問18

〔例〕 道理に合わないこと・落ち度・非（が一方の側にあること）。

〔解説〕 「曲」は「まがったこと」から転じて「道理に外れていること・非」。「直（ちよく＝正しい）」の対義として用いられる。

問19

(1) 史記 (2) 司馬遷（しばせん） (3) 紀伝体（きでんたい）

〔解説〕 『史記』は前漢の司馬遷が著した歴史書。帝王の記録「本紀」と人物の伝記「列伝」などから構成される記述形式を**紀伝体**という。年代順に出来事を記す「編年体」と対比して覚える。

問20

ア・ウ

〔解説〕 『史記』は前漢の武帝の時代に司馬遷が著し（ア）、伝説上の黄帝から武帝の時代までを記す（ウ）。イ「唐の時代」・エ「日本の歴史」・オ「編年体」はいずれも誤り（『史記』は紀伝体）。

問21

(1) (例) 欠点がまったくなく、完全であること。

(2) (例) 彼の演技は完璧で、観客は息をのんだ。／ (例) 準備を完璧に整えて本番に臨んだ。

〔解説〕原義「傷のない璧を全うする」から転じて、現代では「少しの欠点もなく完全であるさま」を表す。短文は「完璧だ／完璧に～する」の形が自然。

問22

(例) たがいに相手のためなら首をはねられても悔いないほどの、固い友情・深い交わり。

〔解説〕「刎頸の交はり」は、のちに藺相如と廉頗が和解して結んだとされる深い友情を指す故事成語。命をかけても惜しくない親友の交わりをいう。

問23

イ

〔解説〕本文の内容に一致するのはイ。アは「はじめから誠実に交渉」が誤り（城を渡す気はなかった）。ウは「璧を渡して逃げた」が誤り（璧は守り抜いた）。エは「十五城を手に入れた」が誤り（城は得られていない）。

問24

(解答例) 応じるべきではない。秦が城を渡さず璧だけ奪う恐れがある一方、断れば兵を向けられる心配もあるため、信頼できる使者を立てて慎重に交渉すべきだ。(約60字)

〔解説〕本文では家臣たちが「秦に与えれば城をだまし取られるかもしれない／与えなければ攻め込まれるかもしれない」という板挟みを心配していた。この二つのリスクにふれて自分の判断を書けていけば可。賛否どちらでも、理由が本文に即していればよい。